

年金兼業生活を 楽しもう



松本すみ子先生

有限会社アリア代表取締役、「NPO法人シニアわーくす Ryoma21」理事長。シニアライフアドバイザー、キャリアコンサルタント、産業カウンセラー。早稲田大学卒業。IT関連企業に勤務後、2000年に起業。企業、行政・自治体などで、シニア世代の動向研究とライフスタイル提案、市場コンサル、講演・講座の講師、執筆活動などを行っている。著書に『55歳からのリアル仕事ガイド』、『地域デビュー指南術～再び輝く団塊シニア～』他。

まず地域デビューを

「人生100年時代」といわれるように、今や定年後の時間が30年、40年と、現役の期間と同じくらい残されています。「その期間をどう過ごすのか」はご本人にとっても大きな問題ですが、国や自治体にとっても大きな問題です。することがなくてテレビばかり

り見ているのでは、どんどん体力も低下しますし、認知症も進みます。ひいては、医療保険や介護保険の費用負担が増え続けることにつながってきます。

今、人手不足が大きな課題になっているのですから、まだまだ元気なシニアには、家に引きこもらないで、「働く」「地域に貢献する」などの選択肢をぜひ検討していただきたいと思います。

知人に、「車の運転が好きだから」と定年後、あらたに介護タクシーを始めた方がいます。初めてのお客様から

「今日は本当にありがとうございます。次もよろしくお願いします。また、次もよろしくお願いしますね」と言われた時に、思わず涙が出たそうです。それまで大企業で働いてきた方ですが、「お客様から『二度と来るな』と言われたことはあっても、お金をいただいたのに、こんなに丁寧にお

礼を言われたことはなかった」と。地域の方に喜んでいただけるというやりがいを感じながら、いくばくかの収入を得ることもできるのですから、これからはこういうコミュニティ・ビジネスがどんどん増えていくのではないのでしょうか。

平均的な家庭では、定年前には10万円程度の余裕があっても、再雇用期間は収支トントン、年金収入だけでの生活になると8万円程度の赤字家計になります。預金を取り崩していく生活に入るわけです。働くことによってその取り崩し額がいくらかでも少なくなればこんなに心強いことはありません。

スターティング ノートを作ろう

シニアパワーの活かし方を真剣に考えている自治体も増えていきます。

東京都でも「セカンドキャリア塾」というものが、昨年、